

## オピオイドスイッチング～カ価換算表～

痛みからの解放～第4版～ 2016年12月  
聖マリヤ医科大学病院横浜市西部病院 緩和医療委員会

成分	医薬品名	投与量 (mg/day)					効果発現時間	特徴
		60～180	150～300	*300mg/day以上必要となったら強オピオイドへ				
コデイン	コデインリン酸塩錠	60～180					30～45分	鎮咳作用を有する 鎮痛作用はモルヒネの約1/6
トラマドール	トラマールOD錠	100～150	150～300	*300mg/day以上必要となったら強オピオイドへ			70～90分	神経障害性疼痛に効果的 便秘、嘔気・嘔吐の発現頻度が低い
モルヒネ	MSコンチン錠	<30	30～60～90	90～120～150	150～180～210	210～240～270	70～90分	剤形が多数あり、経口、静脈内、直腸内、硬膜外、クモ膜下腔内へも投与できる
	アンバック坐剤	<10	15～30～45	45～60～75	75～90～105	105～120～135	20分	腎機能低下患者では副作用増強の可能性がある
	モルヒネ塩酸塩注	<10	10～20～30	30～40～50	50～60～70	70～80～90	5～10分	便秘、嘔気・嘔吐および嘔気の副作用が比較的強い
オキシコドン	オキシコドン徐放カプセル	<20	20～40～60	60～80～100	100～120～140	140～160～180	1時間	腎機能低下患者にも比較的投与しやすい
	オキファスト注	<15	15～30～45	45～60～75	75～90～105	105～120～135	5～10分	主な副作用は嘔気・嘔吐、便秘および嘔気であり、モルヒネとほぼ同等
フェンタニル	フェンタニル注射液	0.3	0.6	1.2	1.8	2.4	5～10分	副作用に嘔気・嘔吐はあるが便秘・眠気は比較的強い
	フェントステープ	1	2	4	6	8	6時間	静脈内投与時の最大効果発現時間は約5分と他のオピオイドと比較して即効性がある

レスキュー (1回量 mg)		オピオイド1日量の1/4～1/8量を目安とする					効果発現時間
トラマドール	トラマールOD錠	25	25 or 50				70～90分
モルヒネ	オプソ内服液	5	10	20	30	40	10分
	アンバック坐剤	2.5	5	10	15	20	20分
オキシコドン	オキノーム散	2.5	5	10	20	25	15分

## スイッチングのタイミング

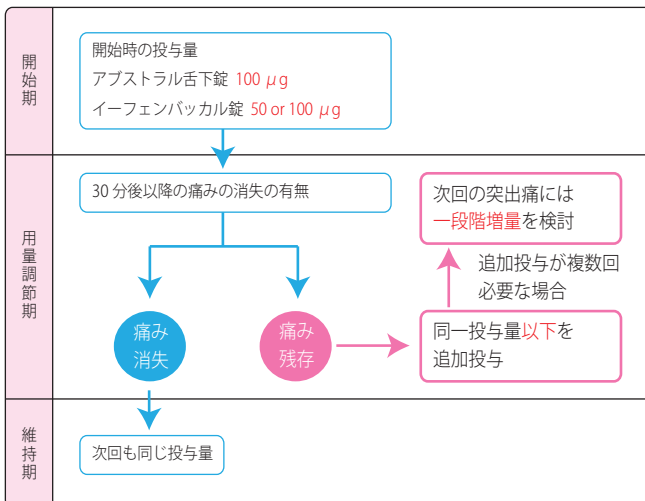
剤形 変更前⇒変更後		タイミング
内服	内服	通常内服時間に切り替えて内服
	点滴	最終内服後少量から開始し 次回内服予定時間までに維持量へ増量
	貼付	最終内服と同時に貼付
点滴	内服	点滴終了時に内服開始
	点滴	先行薬剤中止直後に切り替える
	貼付	貼付後6時間後で点滴終了
貼付	内服	剥離後6時間後に内服
	点滴	剥離後6時間後に維持量投与開始

### 【スイッチングの適応】

- 副作用が強くオピオイドの投与の継続や増量が困難な場合
- 鎮痛効果が不十分な場合

注意：フェントステープ4mgを超えて切り替える際は、  
数回に分けて切り替えを実施すること

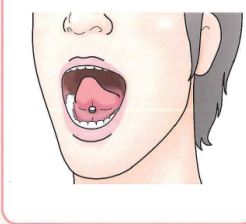
## フェンタニル即効剤の使い方



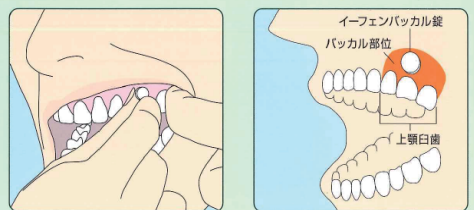
舌下の奥の方に錠剤を入れてください。

アブストラル  
舌下錠の使用方法→

イーフェンバツカル  
錠の使用方法  
↓



上奥歯の歯ぐきと頬のあいだに挟む → 自然に溶ける



## 副作用対策（開始・増量時）

### ＜眠気＞

初期に発現、数日以内で耐性化

対策：痛みなく強度の眠気がある場合減量を検討

### ＜悪心・嘔吐＞

初期に発現、1週間程度で耐性化

種類	医薬品名	1回量	1日回数
ドパミン受容体拮抗薬	★ノバミン錠	5mg	3回
	★リントン注	5mg	1～2回
抗ヒスタミン薬 (めまい併用)	レスタミン錠	30～50mg	2～3回
	ネオマレルミン錠	2mg	1～4回
	ポララミン注	5mg	1回
消化管運動亢進薬 (食後に出現)	メトクロプラミド錠	5～10mg	1～3回
	メトクロプラミド注	10mg	1～2回
	ドンペリドン錠	10mg	1～3回
	ナウゼリン坐剤	60mg	1～2回
非定型抗精神病薬 (上記無効な場合)	ジプレキササイディス	2.5～5mg	10mg以下
	リスベリドン内用液	0.5～1mg	4mg以下

※1日量使用してもコントロール不良であればPCTへ依頼検討

### ★薬剤部推奨

### ＜掻痒感＞

硬膜外投与やクモ膜下投与に起こりやすい

対策：抗ヒスタミン薬の投与、外用薬の塗布

### ＜便秘＞

高頻度に発現、耐性化しない

種類	医薬品名	1回量	1日回数
浸透圧性下剤	★酸化マグネシウム錠	330～660mg	3回
	ラクツロース	10～20mL	1～3回
大腸刺激性下剤	★センノシド錠	12～48mg	1～2回
	★ピコスルファートNa内用液	5～30滴	1～3回
	アローゼン顆粒	0.5～1mg	1～2回

### ★薬剤部推奨

(症状に応じてグリセリン浣腸も考慮)

### ＜せん妄、幻覚＞

初期に発現、原因薬剤中止後、数日から1週間程度で改善

注意：オピオイド、BZ系薬剤、抗コリン薬も被疑薬

### ＜呼吸抑制＞

過量投与時に出現

対策：酸素投与、患者の覚醒促す

必要に応じてナロキソン注を投与

### ＜口内乾燥＞

用量依存的に起こる

対策：頻回に水分や水を摂取、人工唾液を塗布

## 癌性疼痛の鎮痛補助薬

(※原則オピオイドと併用) 《薬剤選択のポイント：①痛み性状、原因 ②副作用 ③腎機能 ④経口可か》

痛みの性状	医薬品名	適応	開始量(1日量)	維持量(1日量)	投与方法	増量間隔	副作用	腎機能低下例
発作性	リオレサル	癌性麻痺	5～15mg	30～90mg	分1～3	1日毎	筋弛緩・眠気	△
	リボトリール	精神運動発作 自律神経発作	0.5mg	1.5～3mg	眠前1日1回	2～6日毎	筋弛緩・眠気	◇
	デバケン	てんかん、躁病 頭痛発作	200mg	400～1200mg	水剤：分2～3 R製剤：分1～2	2～3日毎	肝障害	◇
	テグレトール	てんかん、躁病 統合失調症、三叉神経痛	100～200mg	～1200mg	分2～3 or 眠前	2～3日毎	肝障害	△
	ガバペン	部分発作	200mg(眠前)	～2400mg	分1～3	1～2日毎	眠気・ふらつき	△
	リリカ	神経障害性疼痛 線維筋痛症に伴う疼痛	150mg	300～600mg	分2	1～2日毎	眠気・ふらつき	△
しびれる 引っ張る しめつける やける	サインバルタ	うつ病・うつ状態 糖尿病性神経障害、 線維筋痛症	20mg	40～60mg	朝分1	3～7日毎	悪心嘔吐・食欲不振	× (Ccr<30で禁忌)
	セロクラール	脳循環改善薬	60～180mg	60～300mg	分3	1日毎	起立性低血圧	× (データなし)
	ケタラール	全身・吸入麻酔の導入	50mg	50～150mg	持続注射	1日毎	呼吸抑制	○
慢性腹膜炎	メキシチール	頻脈性不整脈(心室性) 糖尿病性神経障害	150～300mg	150～450mg	分3	1～3日毎	悪心嘔吐・食欲不振 心伝導障害	△
消化管閉塞	サンドスタチン	消化管閉塞	100～300μg	100～300μg	持続皮下注	1～2週間	腸蠕動抑制	△
腫瘍による 炎症・浮腫	リンデロン		①漸増法：0.5mg～ ②漸減法：4～8mg～	0.5～4mg	分1～2 内服・点滴注射	2～3日毎	食欲増進・倦怠感抑制 異化亢進・高血糖	○
	デカドロン							

※赤字は鎮痛の適応

○：減量不要、△：減量必要、◇：慎重投与、×：禁忌

## 神経因性疼痛の鎮痛薬

(※NSAIDsやアセトアミノフェンと併用) 《薬剤選択のポイント：①第一選択から ②3～7日で増量 ③腎機能》

	医薬品名	適応	開始量(1日量)	維持量(1日量)	投与方法	効果判定	副作用	腎機能低下例
第一選択	トリプタノール	うつ病・うつ状態、夜尿症 末梢性神経障害性疼痛	10～25mg	～150mg	分2～3	2～8週間	催眠、抗うつ 抗コリン作用	◇
	ガバペン	部分発作	100～300mg	～3600mg	分3	2～8週間	催眠	△
	リリカ	神経障害性疼痛 線維筋痛症に伴う疼痛	150mg	～600mg	分2	4週間	催眠	△
第二選択	ノイロトロピン	帯状疱疹後神経痛 腰痛、関節痛	4錠	4錠	分2	4週間	ほぼなし	○
	サインバルタ	うつ病・状態、線維筋痛症 糖尿病性神経障害	20mg	60mg	朝分1	4週間	悪心	× (Ccr<30で禁忌)
	メキシチール	頻脈性不整脈(心室性) 糖尿病性神経障害	300mg	～450mg	分3	4週間	催不整脈	△
第三選択	トラマドール	慢性疼痛、癌性疼痛	50～75mg	300～400mg	分2～4	4週間	消化器症状	△
	トラムセット	慢性疼痛、抜歯後の疼痛	75mg(2錠)	300mg(8錠)	分2～4	4週間	消化器症状 肝障害	△
	レバタン	術後痛、癌性疼痛 心筋梗塞症の鎮痛	0.2mg/回	0.2mg×3～4	坐薬 点滴注射	4週間	消化器症状 呼吸抑制、易依存性	○
	フェントステープ	慢性疼痛(e-learning必要)	1mg	なし(慎重)	貼付	4週間	消化器症状 呼吸抑制	○

※赤字は鎮痛の適応

○：減量不要、△：減量必要、◇：慎重投与、×：禁忌